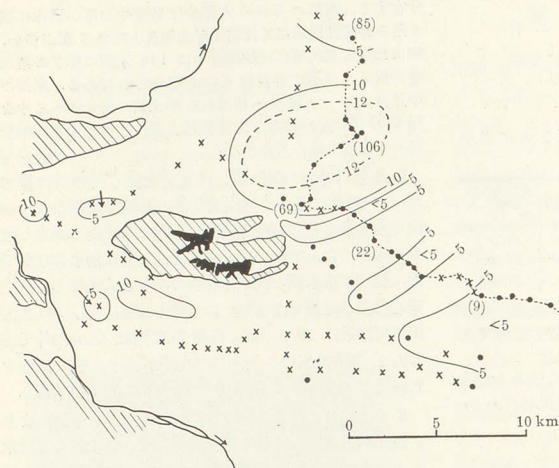




第 2 圖 豪雨による地下水位の上昇 (m)。小區域の中水は除外、
() 内の数字は第 1 圖の断面の番號、點線は第 1 圖の断面の位置、
● 實測値、× 推算値 (湧水期の水位は間取による)

入久保」の状態を如實に示した。地點 80 は湧水期には 20 m 以上の深井のある所であるにも関わらず野水を見たのは局部的に存する中水の影響と思はれる。

地點 80, 106 附近には中水の外にも砂礫層中に薄い粘土層があり、約半数の井はその上に中水となつて湧へてゐる水を利用してゐたので湧水期には本水との水位差約 5 m あり、中水のあるものは全く湧水したが、豪雨の結果中水の不透水層以下の空隙は勿論それ以上の礫層も水で充され、水位は本水、中水共同となつた。この状態だけで考へると本井は 5 m も不必要に掘り込んでゐるやうに見えるであらう。

中水帯が崖端に逼る所では崖を切割つて作つた道路の多くは崩壊し、數日後迄泥濘が他の切割よりひどかつた (例第 1 圖 26, 120, 100 點附近)。

東京文理科大學地理學教室

吉村信吉

黒潮 (Kuroshio) と親潮 (Oyashio) の名前に就て

黒潮は日本と切り離す事の出来ない且日本に相應しい大海流である爲めか「日本海流」と云はれる。嘗て故小倉伸吉博士は海洋術語座談會で「日本海流」の方を學名として推奨されたが未だ関係者の間でも懸案の様である。それと云ふのも黒潮の名は随分昔から人口に膾炙して居て (文獻では 1650 年 Varenius の地理書が最初と野滿博士著海洋學に出て居る)、確かに日本人の命名に基く日本固有の名前で「美しい明るく澄み透り黒味がかつたコバルト色を呈する強烈な大海流」の意味を二字のうちに盛り込んで居るからであらう。しかも

黒潮は北北東乃至東に流去する暖流である。本年 6 月筆者は宮崎縣南部 (油津、南郷) の漁業者から黒潮を昔から一名「日ノ本潮」と呼んで居る事を聞いた。之は「上り神流」とも云つて日の出る方即ち東方へ向ふ強い海流の意味であるが偶、海代に日本民族のスタートした日向の國で聞いたので、Berghaus の地圖 (1837 年) に初めて日本海流 (Japanischen Strom) と記名されたといふ事と思ひ合はして或ひは偶然の一致かも知れないが興味を覺えた。日本海流は漢字では日本海々流と誤る虞れもなしとしながら、Japan Current などと書く分にはよく Kuroshio or Japan Curr. と書けば海外一般には分りがよいだらう。黒潮のローマ字綴りは Kuroshio, Kurosiwo, Kuroshio, Kurosio 等今迄難多に記されて居り、筆者も以前

は Kurosiwo を用ひて居たがローマ字新制定に従つて簡潔に Kuroshio と書く事に統一したがよいと考へる。次に漁業者が黒潮の色々な特徴に目をつけて名付けた各地の異名は面白いと思ふから記して置く。三陸地方では沖を北に向ふ所から「北沖潮」と云はれ、伊豆七島では西から東へ「落すシオ」の意味で「オトシオ」と云はれ、又の名紀州以東共通で「下りシオ」と云ふ。之は昔の帝都即ち京都のある上方から見て東へ「下る」の意味である。土佐、日向方面では反對に「上りシオ」といつて居るのは上方へ向つて東へ「上る」からの稱呼である。又三重縣以東常磐海迄では「マシオ」といふ名が可成り一般に通用して (水路誌にも出てをる) 沿岸の漁船に對し稱へるが、之は紀南で「本潮」と唱へると同様、眞正の沖合を走るシオの意味であらう。以上は黒潮の流れる方向に着眼した名であるが、速さに目をつけて土佐では「生キジオ」とも云ふ。之は速くて生々活動する、「生キのヨイ」意味である。又日向南部では特に激烈なるを「子賣りジオ」と云ふ。之は暖流が速すぎて (初夏に多いので「六月の子賣りジオ」とも云ふ) 昔の櫓船では漁が出来ず芋の蔓を喰ひ女子供迄人手に渡した悲惨な出来事を伴つた事を物語つて居る。所謂藍の出花のやうな黒潮の美しい水色に著目して東北地方で「結氷水」、又一般に「上紺水」といふ。透明度の著大な明るいシオといふ點から日向では「明カシオ」とも云ふ。之を要するに舊來の海流や海區の名稱には相等研究すべきものの整理統一すべきものもあるやうであるが、著者はたゞ其の參考に記述して置く。黒潮の名が「灣流」などと違つて科學の本質を擲んで居り語源がはつきりして居るに對し、日本の今 (一名千島海流) の語源は、親潮東北地方沿海の寒流の意味で名づけしる水」といふ名は昔稱呼がいつの頃からか表示を乞ひたい。

智齒出芽頻度 關する數學的

智齒の萌出は人に依り、一部又は全部が歯槽の割合を觀察する其分布に就て統計的材料を興味ある事に氣付く果て見らるべき成績を短期間に御教示を仰る 19 年度東京帝國大學入人の本邦青年男子である

第 1 表に認められる所と同數なることとだけ餘如せるもの數々とは大に異なる事、 $\frac{W}{-W}$ 數なる事等である。

以上上	WW	W-	W
以下下	WW	WW	W
合計	3 000	256	2
計算値	2 994	265	2
差	6	-9	

以上の如き諸事實を、學部附醫學教室川上理一氏の如きである。

さて數字の配列から拵く同じものが隣り合ふものも隣り合ふ事がある。同一の類に於て左右に如く異なるものが隣り合ふと假定することが出来る。

例に於て上下に同じものも隣り合ふ場合に比する。但し此の二つの値を計算し得ない。

(1) 昭和 11 年 10 月日本の

以上二つの假定に依り各組の生起する割合を計算すれば第 3 表の如くなる。偖て第三の假定に依れば智齒萌出の頻度を q とし $\frac{1-q}{q} = a$ とすれば $\frac{W/W}{W/W} = \frac{1}{a}$ との比は $1:a^a$ の割合となり、同様の考へを以てすれば各組の生起すべき割合は第 3 表の如くなる筈である。而して $a=1.03$, $x=2.4$, $y=4.8$ なる値を入れて計算したものが第 1 表計算値である。統計値と計算値とは、